



第2回 こども部会（令和6年7月8日開催）

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	山村委員	不登校の要因の割合を出すことはできるのか。	文部科学省の調査(令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果)によりますと、無気力・不安というのが約50%、生活リズムの乱れや非行・遊びが約11%、いじめを除く友達関係をめぐる問題が約10%、親子の関わり方8%、学業の不振が5.2%となっております、様々な要因となっている。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
2	片上委員	西成区は他の区に比べて毎日の宿題と夏休みの宿題の量が確実に少ないと思われる。他の区は夏休みに読書感想文が必須の宿題として出るが、西成区は必須ではない。本を読む機会を強制的に与えないと子どもたちは本を読まない。これが小学校1年生から小学校6年生までの積み重ねとなると読解力が身に着かず、大きな差が出てくるのではないかと思う。数学や英語に関しては積み重ねであるが、国語や社会、理科は本人が興味をもつことで成績がぐんと上がったりする。学校の先生以外に西成ジャガピースクールなど異なる先生に教わることによって興味が持てて成績が上がるのではないか。	それぞれの学校の教育方針があるかもしれませんが、そのあたりは校長先生の集まる場などがございまして、そちらのほうで情報収集等させていただきたいと思う。 色々な先生に学ぶことによって興味を持ち成績が伸びていくということもあると思う。西成区は様々な事業を実施しており、色々なレベル、学年に応じて学習塾も実施していますので、事業者と連携して、よりよい内容にしていこうと努めて参りたいと思う。	当日の回答のとおり	子育て支援担当
3	片上委員	現在は不登校になったとしても、多くの選択肢があって学校に行かないといけないという理由が昔に比べてなくなってきている現状があり、支援すればするほど学校に行く意味がないというふうに思ってしまうところが難しい。	学校に通わせるという結果だけを目標にするべきではないというような考え方に文部科学省もなっており、児童生徒が主体的に自分の進路を考えて、社会的に自立できるようにするということが一番大事なことだと思う。 学校に通うのが良いのか、あるいは他の選択肢が良いのか、そういったことを踏まえながら、それぞれの立場、役割で児童生徒に関わっていただきたいと思う。	当日の回答のとおり	子育て支援担当

委員からのご意見

議論のテーマ「西成区の教育環境について」

【学力向上について】

- ・西成区は様々な学力向上や不登校対策などの事業をしており、知らなかったので感心している。
- ・学力はすぐに上がるものでないが、家庭でも、学校でもどうにかして、少しでも上げていける方法があったらいいと思う。

【不登校対策について】

- ・不登校になる原因は個々の子どもによって違うと思うが、学校・家庭・市民・地域団体・NPO・企業の中でどこが一番キーになっているかというのも、一例として学校と言った場合でもまずは担任の先生になると思う。けれども、中学校2年生の生徒で、1年生の担任の先生と通じ合えたことでどのように取り組めば分かったという例が幾つかある。どうすればいいのかというのはあると思うが、保護者が気づいたことを学校のほうに言ったとしても、そんなことはなさそうに終わってしまてはいけないと思う。例えばクラブ活動されていたり違う関わりがあるところ全てが大事だと思う。
- ・保護者がしっかりしてくれたため、不登校から抜け出せたケースがあったが、家庭があって、学校があってお互い大変だと思うが、お互いに目を見て、話をしていけたらいいと思う。
- ・不登校については、不登校になる原因があると思う。その問題を解決するのは地域や学校であったりすると思うが、学校の先生に任せきりにするのではなく、地域と保護者の家族の方で支えてあげることが大切だと思う。また、不登校になると子どもが辛い思いをするので、朝早くに起きて、制服に着替えて学校の正門にタッチしに行くことを1週間続ける。2週間目は、学校が開いている時間帯に1歩入るなどチャレンジをしていき少しずつ慣れていくことが大切だと思う。
- ・不登校の理由として家庭環境や友人関係、いじめや勉強関係などがあげられるが、不登校の理由は様々で、理由によって支援するところや内容が異なってくる。不登校の要因の割合を出すことができればと思う。出すことが出来たら、今後の地域、区、学校の対応が変わってくると思う。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。